

ピューリタン革命

エリザベス1世後、国王の専制政治に対して、国民の権利を求め、ピューリタン革命が勃発する

エリザベス1世の時代、貴族とジェントリからなる大地主が議会で重要な役割を占め、商工業の発達と共に中産階級が成長していた。

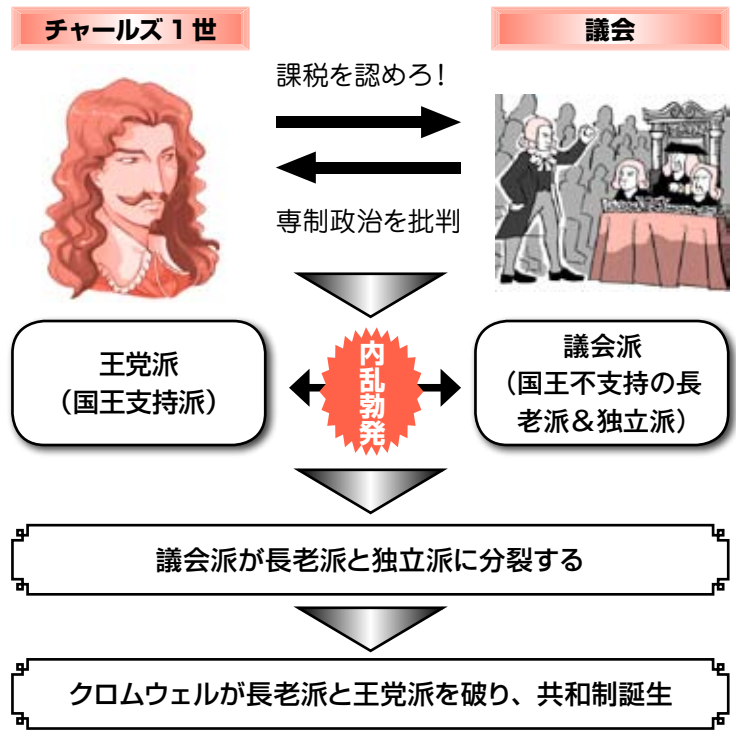
エリザベス1世を継いだ**ステュアート朝**のジェームズ1世と、次のチャールズ1世はこうした社会情勢を理解せず、議会を無視して王権神授説を掲げた専制政治を行い、イギリス国教会を強制する。

ピューリタン（清教徒）が多くを占める中産階級は王と対立し、国民の権利を求めて1628年に**権利の請願**を議会で可決するが、チャールズ1世はこれを無視して議会を解散した。

王は議会を11年間開かなかったが、スコットランドの反乱を抑える費用を工面するために議会を再開すると、再び議会在王を批判したため、武力で議会を抑えようとして王党派と議会派の内乱がはじまった。

議会派はやがて、立憲王政を目指す温和な長老派と、王との戦いを徹底する急進的な独立派に分裂する。ジェントリ出身の独立派**クロムウェル**は、精鋭の**鉄騎隊**によって王党派を破り、長老派を追放すると、チャールズ1世を処刑して共和制を打ち立てた（ピューリタン革命）。

共和制誕生までの流れ



(((((((((((知ったかぶり度チェックテスト))))))))))

- Q1 イギリスの清教徒のことを何という？
 ①ゴイセン ②ピューリタン ③カトリック
- Q2 クロムウェルが率いた精鋭部隊を何という？
 ①奇兵隊 ②鉄騎隊 ③白虎隊

ソ連の指導力が低下

フルシチョフのスターリン批判をきっかけにソ連の影響力が低下し、東欧で自由化政策を掲げる国が現れた

スターリンはソ連を中心とする独裁体制で、社会主義圏をまとめていたがその死後、第一書記となったフルシチョフは**スターリン批判**を行い、自由化を打ち出した。

資本主義国との平和共存が表明され、コメコン体制の修正や**コミンフォルムの解散**がなされると、ソ連の強力な指導下にあった東欧社会主義圏では、自立・改革の動きが現れる。

ポーランドとハンガリーでは、民主化やソ連からの離脱を求める民衆と軍・警察が衝突するが、ソ連はそれに軍事介入して鎮圧した。

1967年に起きた**キューバ危機**を経て、同じ社会主義国であるソ連と中国が、国際的な社会主義の在り方を巡って衝突すると、アルバニアが中国を支持し、ルーマニアも公然とソ連を批判して独自の外交を進めた。

チェコスロバキアでも民主化運動が起こり、1968年にドブチェクが主導した「**プラハの春**」と呼ばれる自由化改革が進められると、ソ連はワルシャワ条約機構加盟4カ国と共に軍事介入して武力弾圧した。この行為が国際的批判を浴びたことにより、ソ連の指導力は低下し、社会主義圏の経済や政治は停滞する。

フルシチョフのスターリン批判で東欧諸国に自立心が芽生える



スターリン



フルシチョフ

スターリン批判



東欧諸国に自立と改革の動きが現れる

ポーランド、ハンガリー、ルーマニアなどで民主化運動が激化

プラハの春
チェコスロバキアでドブチェクが自由化を推進。この動きはプラハの春と呼ばれるも、ソ連の介入で頓挫する

(((((((((((**知ったかぶり度チェックテスト**))))))))))))

- Q1 スターリン批判をしたのは誰？
①トルストイ ②フルシチョフ ③ブレジネフ
- Q2 1968年のチェコスロバキアの改革を何という？
①プラハの春 ②ブダベストの春 ③ウィーンの春